意外と知らない ニッチなトリビア

今回の「意外と知らないニッチなトリビア」はウエディングには欠かせないウエディングブーケにまつわるトリビアをご紹介します。トリビアを知るって、とってもトレビアーン!!

トリビア好きの案内豆(?)、
トレ・ビーンズ男爵。
小粒だけど面白い
豆知識を広めています。

ブーケとブートニアの ロマンチックな関係。

ブーケの起源は諸説ありますが、一番ロマンチックなのは男性がプロポーズをする時に、野の花を摘んで花束にし、愛する女性に贈ったという説デース。女性はそのプロポーズに対してイエスならば花束から一輪だけ花を抜いて、男性のポケットに差し込みます。これがブートニアの始まりです。ですからブーケとブートニアはセットなのデース。もともと紀元前3000年頃の古代ヨーロッパには花に思いを託す習慣があったそうです。

19世紀頃はブーケの代わりに花で作った冠を頭に載せていたようです。使われていた花は白いギンコウバイやオレンジの花でした。白は純潔のイメージでまさに花嫁を象徴する色です。また中世ヨーロッパ時代のキリスト教の広まりとともに、花を宗教的に結び付けて考えるようになり、白い花は邪悪なものを寄せ付けないためのお守りのような意味合いも持っていたようデース。オレンジの花は、たくさんの実をつけるオレンジにあやかり子宝に恵まれるようにという思いが込められています。日本では1960年代半ば、欧米式の教会ウエディングの流行とともに広まりまシタ。

ちなみにブーケトスの起源は14世紀頃のイギリスといわれてマース。花嫁が身に着けているものを持つと幸せになれる、花嫁の幸せにあやかりたいという思いから、花嫁のドレスを引っ張ったり、小物を奪い取ったりしたようですが、それでは非常に危険だということで、ブーケを投げる習慣ができたそうデース。それでは、次回のトリビアもお楽しみに!!オ・ルヴォワール!!

※こちらで紹介いたしましたトリビアは一例ですので、諸説によって異なる場合がございます。

「意外と知らないニッチなトリビア」では読者の皆様からのトリビアを募集しております。
なお、投稿はアンケートのほうにお願いします。皆様のご応募お待ちしておりマース。

編集後記

今月号の表紙の写真は何と！立原綾乃さんのご提供です♪寒さも和らぎ、ようやく春めいてきたこの時期にピッタリの色合いですね。私が式を挙げたらこんな可愛いプチギフトをゲストに提供したいです★
(佐々)

私の好きが高じて今回登場をお願いしたayameさん。とっても素敵なアイディアを沢山持っていらっしゃる方で、一緒にいるとワクワクしてしまいます！花粉症に負けず、私もそんな大人の女性を目指そうと思います♥
(久保田)

株式会社マイプリント http://www.myprint.co.jp/ 〒206-0025 東京都多摩市永山 6-11-11

MY Pleasure

喜び・感謝伝える“マイプレジャー”

2012 Spring Vol.8

For Our Pleasure
ウエディングデザイナー
立原綾乃さん

ウエディングをもっと素敵に!
オシゴト拝見
ブライダルスタイリスト
山口まりなさん

フリープランナーの
喜ばれる結婚式3つのスパイス
フリーウエディングプランナー
ayameさん

ウォルト・ディズニー生誕110周年記念
限定アイテムリリース!
Fantastic Wedding

ギフトショップも兼ねた新郎新婦と打ち合わせをするアトリエ。

既存のウエディングにはない、ふたりならではの個性や温もりが満ち溢れたウエディングを発信。

アメリカ留学時代に出逢った数々の感動的なウエディングの経験から
「日本にも、もっと自由なスタイルで叶えるオシャレなウエディングを」と、
日本で初めてウエディングデザイナーの仕事をたちあげた立原綾乃さんにお話を伺いました。

新郎新婦の結婚式への想いや世界観を形にするウエディングデザイナー

ウエディングデザイナーとは、パーティ文化のある欧米ではイベントデザイナーと言います。結婚式の時間と空間を全て白紙の状態からプラン&デザインし、新郎新婦が想い描く結婚式を実際に形にするクリエイティブな仕事です。今、ウエディングデザイナーへの様々な依頼が増えてきた背景には、時代とともに結婚式をどう挙げるかという意識が大きく変わってきたことがあります。ご両親がお膳立てして挙げる結婚式から新郎新婦が主催する式へとシフトしてきたことから「今あるものでは満足できない、すべてオリジナルでふたりらしい結婚式を挙げたい」というこだわりのある新郎新婦たちが急激に増えてきました。

では、みんなが憧れる欧米スタイルの結婚式が、なぜそんなにステキに見えるのか?それは、ガーデンウェディングや可愛い装飾だからということだけではなく、既存のウエディングにはない、ふたりならではの個性や温もりが満ち溢れているからです。特に際立つのは新郎と新婦の絆、更にゲストとの心と心の触れ合いや結びつきが強く感じられる点が、目に見えなくてもきちんと五感で感じる時間と空間として形になっています。ふたりが歩んできた歴史や一組一組の夫婦の形が異なるように、結婚式の形も人それぞれ。その新郎新婦らしいカラーや、ふたりに合った演出こそがゲストへのメッセージや感動に繋がるのです。そういう意味で、結婚式の文化や伝統が欧米とは違っていても、新郎新婦の思い描く結婚式が十人十色であることに違いはありません。挙式される人みんなにこだわりがあって当然なのです。

だからこそ、この仕事で一番大切なことは、新郎新婦やゲストの立場に立って当日の風景や時間を常にイメージし実現にまで導くこと。またその過程である「人生の最も大切な一日」を創り上げる準備を一緒に楽しみ、結婚式そのものの素晴らしさを伝えることです。

ペーパーアイテムは「おもてなし」を形にする大切なツール

ペーパーアイテムの中でも、招待状は一番最初のおもてなしです。何より当日のふたりを想像してもらえる唯一のツールです。また招待状の文面やデザインから、どんなパーティになるのか、何を着ていこうかなどイメージを膨らませ、ますます当日が楽しみになります。他のペーパーアイテムも、当日の進行をよりワクワクさせるものであったり、記念となるものとして結婚式をより思い出深いものにするために大切です。

プロデュースしたウエディングの様子

My Pleasureは、誰かの想いを形にし「おもてなし」の楽しさを伝えること。

この喜びは、私の仕事をするうえでのコンセプトでもあります。それは、日本にはまだ浸透してないパーティ文化へと将来繋がるものだと信じています。ふたりが夫婦として生きていくための大切な一日を創り上げる過程は、これからの夫婦の暮らしの楽しみを考えてもらえる『人生の転機』ともいえるのです。仕事を5年前にスタートし、今ではこの仕事に憧れる方々が増えてきたことから、現在はウエディングデザイナーやこれからの時代に必要とされるプランナーの育成にも携っています。

結婚式に対する意識が変わってきた一方で、結婚式を挙げないカップルも増えています。ふたりの一生に一度の大事な日に出席して「自分が将来結婚をするときに、これをやりたいとは思わない」と言われてしまうことほど哀しいことはありません。私たちプロが、ただ結婚式の華やかな面を伝えるのではなく、結婚式を挙げることの『意味』や『本質』をしっかり伝えていかなければいけないのだと思います。新郎新婦・ウエディング業界共に、結婚式に対する意識が変わりつつある今だからこそ、これからのウエディング業界全体に求められる『他にはない、ふたりの結婚式』を一緒に発信していける人の存在が今とても必要だと考えております。

立原綾乃（たちはらあやの）
株式会社トゥルーフォレスト 代表取締役
Ayano Tachihara Wedding Design代表/ウエディングデザイナー

おもてなしが大好きな母の影響で、子どものころからホームパーティやクラフト、料理に親しみながら育つ。17歳で日本を離れ、オーストラリアのハイスクールを卒業後、アメリカ・ロサンジェルスへ渡ってインテリアデザインを学びブライダルの世界へ。『日本にもっと自由でふたりらしいオシャレな結婚式を』と、日本のウエディングデザイナー第一人者として、会場を持たないフリーな立場で、欧米スタイルのような自由なプランとストーリーを感じられるオシャレなデザイン、人の手によって創り上げられる心温まる結婚式のプロデュースをトータルで手掛ける。その彼女の結婚式に対する想いや世界観が、たちまち多くの花嫁やウエディング業界を魅了。日本・アメリカと活動範囲を広げ、現在はこれからの日本の結婚式のためにウエディングデザイナーやプランナーの育成にも力を入れるなど、精力的にこなす日々を送る。『おもてなし』をコンセプトにデザインを融合するという、自らのセンスと経験を生かした彼女の仕事は、ウエディングだけでなくあらゆる分野で活躍中。都心に構えたアトリエでは、ギフトショップを併設させ、クラフトや暮らしの楽しみなどを伝えるワークショップなどを開催。暮らしの楽しみ方を発信したり、誰もが気軽に楽しめるパーティやおもてなしの文化を広めている。

ウエディングをもっと素敵に！
オシゴト拝見

一生に一度の大切な日に最高の笑顔になれるお手伝いを

誰よりも美しく、そして誰よりも輝いて結婚式当日を迎えたい。そんな花嫁の思いを叶えるため、ブライダルスタイリストとして活躍する山口まりなさんにお話を伺いました。

✲ブライダルスタイリストとは？

ブライダルスタイリストはヘアメイクやメーキャップなどを通じて、外見だけではなく、内面からお客様が笑顔になり、自信が持てるようにサポートする仕事だと私自身は考えています。

高校生の頃、友人の紹介でブライダルヘアメイクのモデルをする機会がありました。容姿にコンプレックスを持っていましたが、モデルとしてヘアメイクをしてもらい、撮っていただいた写真の自分の自然な笑顔を見てブライダルスタイリストってすごい！と憧れ、この仕事を熱望しました。

お客様の持つイメージをもとに最高の状態にしてあげることが大切

✲仕事をする上で大切なこと

まずこの仕事で一番大切なのは、常に緊張感を持つことです。毎日のように結婚式はありますが、お客様にとっては一生に一度のことですのでミスの許されない仕事です。決してマンネリ化することなく、常にお客様にとって一番大切な大舞台に携わっているのだという気持ちを大切にしています。また当日は挙式者様も気疲れしてしまいますので、美容室に戻られた時にはホッと和んでいただけるような空間づくりを心掛けています。

スタイリングに関しては、写真としてずっと残るものですので、見る度笑顔になっていただけるものをめざします。流行りすたりや提案も必要ですが、押し付けるのではなく、基本的にはお客様とよく話し合いイメージされているものをその方に似合うよう最もいい状態で作ってさしあげる仕事です。ですから何でもおっしゃってもらえる信頼関係を築くことが何より重要です。

✲これから目指すもの

今後の目標は技術も接客も色々な面でお客様サイド・スタイリストサイドから物事をみれるスタイリストであり続けたいです。そしてお客様のために、各式場関係者の方々と協力してブライダル業界を盛り上げていきたいと思います。またお客様にご相談にきていただき、常にわくわくする空間を皆さんと一緒に作り上げていきたいですね。

挙式者様とは一生にたった一度のお付き合いですが、挙式後にお手紙をいただいたり、遊びにきてくださることもあります。山口さんに担当してもらってよかったと言ってもらえると、少し照れますけど自分の思いが伝わったんだと思えるので本当に嬉しいですね。

✲ブライダルスタイリストに向いている人は？

基本的にはトータルでの美容技術を習得する必要はあります。ですが、誰かを笑顔にすることに喜びを感じられる方であれば、誰でもできる仕事だと思っています。手先の器用さは後からついてくるものですので、気持ちが何よりも大切です。今でもスタッフ間での練習や毎日お客様をセットしていて新しい発見もあります。

あとは美容オタクだとより向いているかもしれませんね。街中でも「あの人のメイク可愛い」とか「あの髪型カッコイイ」とか、なぜそう感じるのかとつい観察してしまいます。これからも日々の中で常に沢山綺麗なものをみて勉強し、より多くのその人らしい笑顔を作り続けていきたいですね。

ブライダルスタイリスト
山口 まりな
（やまぐち まりな）

学校法人資生堂学園を卒業後、ブライダルスタイリストとなり、青山CONVIVIONなど都内の大手結婚式場にてヘアメイク、メーキャップ、着付けなどを中心に担当。花嫁さんの最高の笑顔を作るため日々奮闘中。

3つのスパイス フリープランナーの喜ばれる結婚式

このコーナーでは、フリーで活躍し注目されているウエディングプランナーに、挙式者に喜んでいただける結婚式を創り上げるためのヒントやアドバイスをいただきます。今回は1200組以上のカップルの結婚式を手がけたayameさんにお話を伺いました。

ポイント1 お客様の好きな世界は、お客様自身にすべてある!!

私はお客様と初対面の時、ファッションや身なり、そして持ち物に注目します。革ジャンで来られたら、この方はエッジィな感じが好みなのかな、とか、フェミニンなバッグをもっておられたら、女性らしい世界観が好きなのかな、とイメージを膨らませることができます。そうして、好きなコト・モノを徹底的にお客様から引き出すことから、私の仕事は始まります。そして、お客様の表情は大切な情報の宝庫。どのお客様も、必ずどこかで笑顔になる瞬間があります。笑顔になった瞬間を見逃さない。その瞬間が、次のアイディアの引き出しを開くきっかけになります。お客様がどういうタイプの方なのかを理解した上で、最適なオススメへと提案を変えていく対応力が大切です。

L.Aでのウエディング現場にて

ポイント2 ちょっとした工夫の積み重ねが、大きな仕事の推進力になる!!

ウエディングの打ち合わせの場では「言った・言わない」、が命取りになりますので、お客様の言葉は一言一句逃してはいけません。私は、打ち合わせシートの記入に一工夫しています。三種類のペンを使い、打合せの日ごとに違う色を使うことでいつ誰がどのような発言をしたかが一目で分かるように全て書き留めます。「おふたりの好きな色、趣味、招待状デザイン、フラワー、料理」などヒアリングしたい項目が書き込まれたカウンセリングシートを作っておくことで、主語を省いて内容をメモすることができスムーズです。こうすることで大切な内容を聞き逃すこともありませんし、打ち合わせ後に資料をまとめ直す必要もありません。自分なりのスタンダードを作っておくということは、作業の精度や効率を高めるだけでなく、もし仮に自分が打ち合わせに出られないような事態が起こっても、チームの誰かが滞りなく業務を進めることができる、というシステム面のメリットもあります。

ポイント3 勉強を怠らず、アンテナを磨いて新鮮な視点を保とう!!

常にアンテナを鋭く高く張り、勉強をしていなければ、クリエイティヴな提案力は湧いてきません。私は、年に一回、ロスのビバリーヒルズで8日間のセミナーを開催しています。会社の許可をいただいて貴重な8日間を過ごしたプランナーさんは、驚くようにモノを見る目がガラッと変わります。アンテナの角度が変わってしまうのでしょうね。短期間で、すぐにスキルが向上するわけではありません。しかし、ちょっとした意識の変革があると、みるみるスキルアップしていきます。プランナーさんたちは、日々忙しい中でも、もっと知識やスキルを向上したいと皆思ってらっしゃいます。逆に、会社がそういう意欲のあるプランナーさんたちに勉強する時間を作ってあげて欲しいですね。

L.Aでのブライダルフェア視察にて　クロス担当者との打合せ中

ayame（あやめ）フリーウエディングプランナー

ABC（全米ブライダルコンサルタント協会）PBC・BIA取得者。
音大生の頃、テレビで見たフリープランナーのドキュメンタリー番組がきっかけでウエディング業界に入ることを決意。㈱プルミエ扇屋（本店）にて衣装コーディネーターとして勤務後、アニヴェルセル表参道にて、プランナーデビュー。その後アディックウエディングでゲストハウス・レストラン・ホテルウエディングプロデュース・教育事業をトータルで経験後、フリーウエディングプランナーとして独立。欧米式ウエディングプランナーとして、「本場のパーティー文化を日本に伝えたい」と米国LAビバリーヒルズで研修をスタート。現地ビジネスパートナーなど独自のネットワークや経験を生かし、セレブやこだわりカップルを1カ月2組限定でプロデュース。新規事業立ち上げ、現場教育、ブランディング・商品企画・スクール講師等も行なう。　http://ameblo.jp/ayameparty/

ウォルト・ディズニー生誕110周 年記念限定アイテムリリース!

Walt Disney 110th Anniversary

Fantastic Wedding

Disney Character Wedding Items Collection

ウォルト・ディズニー生誕110周年を記念して、特別限定アイテムをリリース!ペーパーアイテムはもちろん、ウエディングシーンを彩る演出アイテムまで全てディズニー仕様。挙式者がミッキー&ミニーの存在となってゲストをもてなし、一緒に楽しい時間を過ごすことによって挙式者とゲスト双方の『感動』を共有したFantastic Weddingが実現可能です。

▲存在感大のウェルカムオブジェはゲストの目を楽しませます

▶キャラクターのイラストとふたりの写真で飾られた特別なウエルカムボード

▼▶キャラクターイラスト入テーブルマークとエスコートカードでゲストをご案内

▲キャラクター勢揃いのイラストが華やかな印象のペーパーバッグ

▲110周年記念限定ペーパーアイテム「ドリーム」を使ったコーディネート

◀席札の裏には『THANK YOU』のメッセージ入

▲好きなキャラクターのカードを選んでもらう楽しさも味わえるブーケプルズ

▶式が始まるまでの間はプロフィール付席次表でゲストを楽しませて

▲式のクライマックスは感謝の手紙でゲストに『感動』を

▲ゲストのお帰りにお土産として限定のポストカードをお渡しして

© Disney © DISNEY. Based on the "Winnie the Pooh" works by A.A. Milne and E.H. Shepard. MYPRINT